



〒663-8558 西宮市池開町6-46

武庫川女子大学言語文化研究所

TEL 0798(45)3536

FAX 0798(45)3574

<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC>

女から見た女のことわざ II ～女子大生のことわざ意識に変化は見られるか～

「LCりぽーと」第1号は、「女から見た女のことわざ」というタイトルで1994年7月に発行しました。女のことを述べていることわざについて、本学の学生がどのような意識を持っているのかをアンケート調査した内容をまとめたものです。それから13年、2007年2月に、女のことわざについて再度アンケート調査を行いました。

十年一昔、最近では五年一昔などと言われることもあります。「13年経った今、女子大生のことわざ意識は変化したのか否か。変化が見られるとすれば、どのように変わったのか」。以下に調査結果の一部を報告します。

◆調査の概要

	対象者	有効回答数	質問内容
2007年	本学学生(全学部)	162人	* 1
1994年	本学学生(全学部)	519人	

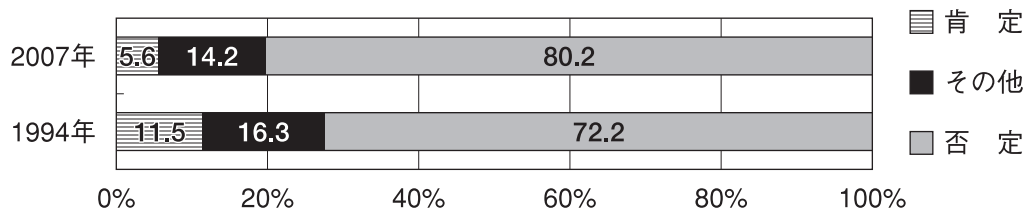
- * 1 8つのことわざについて、a その通りだと思う b そうは思わない c なんとも思わない d よく使う e 使いたくない の5つの選択肢の中から一つ選んで回答してもらおう。回答のaとdとは肯定派、bとeとは否定派とした。cと無回答とはその他とした。

●女性のあるべき姿を型にはめているもの・女性の人格を否定しているもの

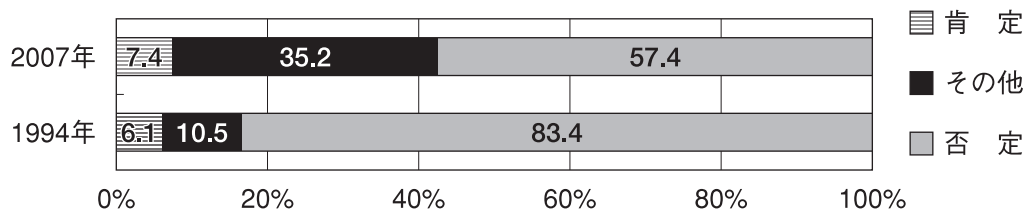
(「夫に付くのが女の道」「男は内を言わず、女は外を言わず」)

この二つのことわざでは、肯定・否定の比率の変化に関して対照的な結果となった(次ページグラフ参照)。「夫に付くのが女の道」では、94年に比べて、肯定派が減り、否定派が増えた。それに対して、「男は内を言わず、女は外を言わず」では、否定派が94年より25%以上減った。否定派が多い点では前回調査と同じだが、その比率は6割を割ってしまった。また、「男は内を言わず、女は外を言わず」において、その他の割合が3倍以上となり全体の3割以上を占めていることも注目される。

夫に付くのが女の道



男は内を言わず、女は外を言わず

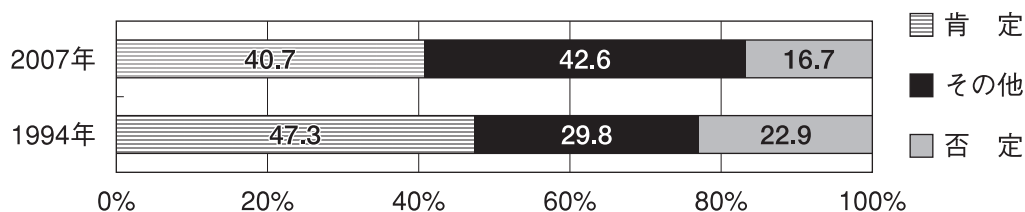


●女性の性格を言っているもの

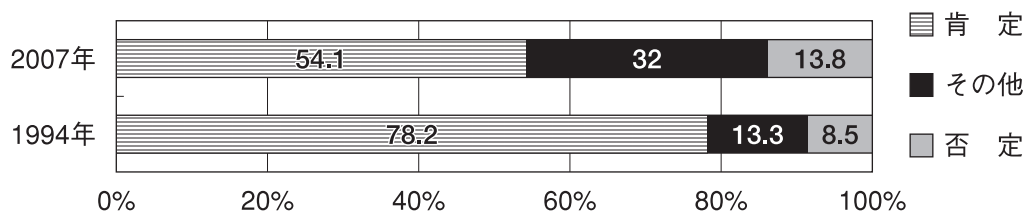
(「女の一念岩をも通す」「女三人寄れば姦しい」「女心と秋の空」「愚痴は女の常」)

この四つでは、肯定・否定に関してそれほど大きな変化は認められない。「女三人寄れば姦しい」の肯定派の減り具合がやや大きい程度である。ただし、「愚痴は女の常」以外は、いずれも、その他の割合が94年より増えている点は注目に値する。

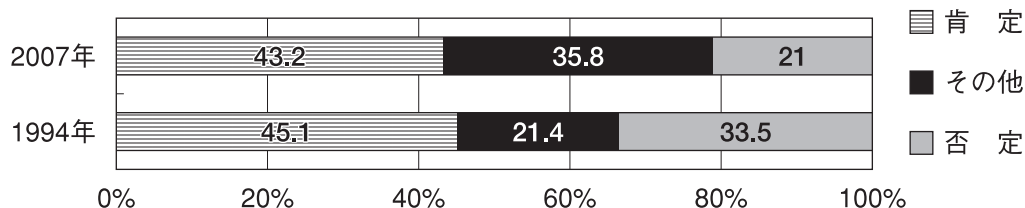
女の一念岩をも通す



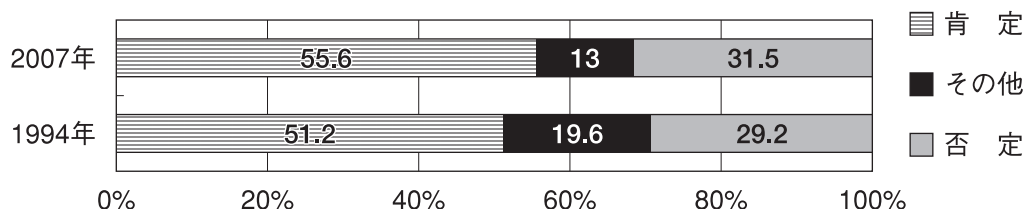
女三人寄れば姦しい



女心と秋の空



愚痴は女の常

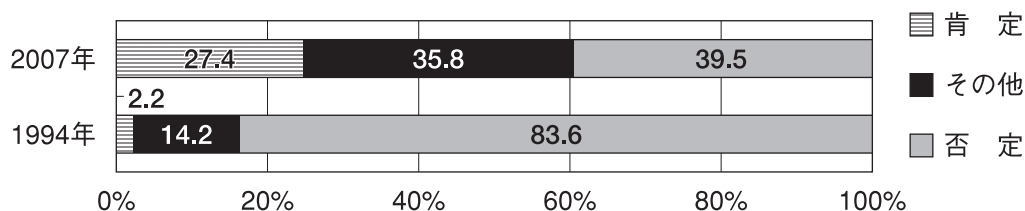


●女性の知性や知恵を否定しているもの

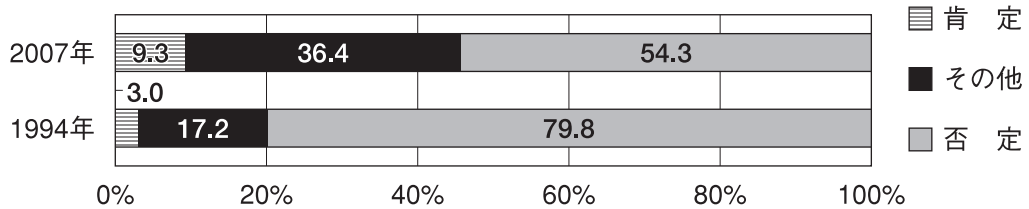
(「女の猿知恵」「女の利口より馬鹿がいい」)

最後に女性の知恵や知性を否定した二つのことわざを見てみよう。ここで、目につくのは、どちらも、肯定派が増え否定派が減っていること、そして、その他の回答が増えて、全体の3分の1以上を占めていることである。「女の猿知恵」では、肯定派は3割近くになり、否定派は約45%も減った。「女の利口…」では、肯定派が約10%に増え、否定派は約25%減っている。そして、その他の割合が、どちらも2倍以上に増え35%以上という結果だ。つまり、「女はバカだ」と知性を否定されても、それに対して「ノー」と言わず、反対に、何とも思わなかったりその通りだと思ったりする割合が増えたということである。

女の猿知恵



女の利口より馬鹿がいい



◆変わりゆくジェンダー意識

以上、13年前の女子大生と今の女子大生とを比べると、大きく二つの点で変化が見られる。それは、何とも思わない学生の割合が増加したことと、否定的な意識をもつ学生の割合が減少したこととである。

これらの変化をどう解釈するか。一つは、ことわざそのものに対する関心がないという解釈である。女に関することわざに限らず、女子大生たちは、日常生活の中でことわざを聞いたり使ったりする機会がほとんどなく、ことわざに対して関心の持ちようがないのではないかというものだ。94年と比べると、ほとんどのことわざで「その他」の割合が増えている。しかも、その数値は非常に高い。このことから、大学生の“ことわざ離れ”が進んでいることがうかがえる。

もう一つは、ジェンダー意識の質的变化が起きているのではないかという推測である。たとえば「夫に付くのが女の道」は、少数ながら肯定派が減り否定派が増え、かつ、その他の割合がほとんど変化していない。しかし、「男は内を言わず、女は外を言わず」「女の猿知恵」「女の利口より男の馬鹿がいい」では、まったく逆の結果となった。女の対極として存在する男を、対「夫」として見る際には、妻の立場として女性軽視は許せないという判断が働く。これは、ジェンダーの視点で言えばまっとうな反応だと言えよう。しかし、知恵や知性における男女の優劣といったような、広い視野が必要となる社会的な男女問題は、女子大生の意識のソトにあるのではないか。夫という目の前の存在に対しては反応できるが、社会的な男女問題に対しては反応できない。自分の回りの小さな守備範囲にだけ関心があり、それ以外は自分と無関係だととらえてしまう。そんな姿が浮かび上がってくる。

女子大生のジェンダー意識は、今、ピミヨーに変わりつつあるのではないか。

佐竹 秀雄・岸本 千秋 2007.Jul.